

課外授業講師派遣制度、今年度も順調に始まる

平成13年度にスタートした課外授業講師派遣制度は、県内各学校からの要望が強く、今年度も順調に始まった。5月には、早くも2校から依頼があり、延べ3回・3名の会員を講師として派遣した。

5月13日には、今年度のトップを切って富山県立新川みどり野高等学校において行われ、四十物直之氏（㈱四十物昆布代表取締役社長）が、「社会人として必要なこと」と題して授業を行った。昼（161名）と夜（14名）の2回に分けて行われ、合わせて175名の生徒が四十物氏の家業を継いだ体験談などに興味深く聴き入っていた。



「目標を掲げて、それに向かって少しずつ努力することが、人を大きくする」と語る四十物氏

今年度の第3回目は、5月20日富山市立西部中学校で行われ、常任幹事の林和夫氏（朝日建設㈱代表取締役社長）が、「社会に学ぶ14歳の挑戦」に臨む2学年163名を前に「社会人としての心構え」と題して講演した。同氏は「働く」とは「端を楽にする」ことであるとし、働くことの意義などをわかりやすく説明した。



挨拶など「A（当たり前のこと）をB（馬鹿みたいに）C（ちゃんとする）ことが大切」と話す林氏

黒部市立鷹施中学校で課外授業を実施

9月22日に、今年度9回目となる課外授業が、黒部市立鷹施中学校で行われた。四十物直之氏



『「14歳の挑戦」に向け、きちんと挨拶できるかどうかの第一印象が大事」と生徒に教える四十物氏

（㈱四十物昆布代表取締役社長）が、10月から「社会に学ぶ14歳の挑戦」に取り組む2年生72人を前に「目標をもつ大切さ」と題して授業を行った。

自らの観光ボランティアの体験から、「視野を広くして、小さくてもいいから目標を持ち、努力して一つずつクリアしていけば、次の大きな目標に向けたやる気につながる。そして、夢は必ずかなう」と話した。



真剣な表情でメモをとる生徒達

好評を博す課外授業講師派遣制度

―要望強く、昨年を上回るペースで実施―

富山市立堀川中学校

今年度、4回目の課外授業は6月7日、富山市立堀川中学校で行われた。藤澤徹氏（藤澤（法務・登記・測量）合同事務所所長）が、「社会に学ぶ14歳の挑戦」を直前に控えた同校2年生317名の前で講演した。「社会人としての心構え」と題して、「あいさつで始まり、あいさつで終わる」など7項目の心構えを紹介した。



「会った人に腰を折ってあいさつするだけで、印象は良くなる」「体験する職場での第一印象が大事」と話す藤澤氏

富山県立大門高等学校

5回目は、6月17日、富山県立大門高等学校で行われ、当会常任幹事の新田八朗氏（日本海ガス㈱代表取締役社長）が、1・2学年320名を前に、「これからの日本を担う皆さんへ」と題して講演した。自らの受験体験などを振り返りながら、高校生活の心構えや進路決定のための助言を行った。



「どんな職業についても、一生涯、勉強は続く」「いかに、楽しく前向きに取り組むかが大切」とエールを送る新田氏

富山県立高岡南高等学校

6回目は、7月12日、富山県立高岡南高等学校で行われ、当会幹事の牧田和樹氏（㈱牧田組代表取締役社長）が、1学年170名を前に、「相手を知る―いい質問をするために―」と題して授業を行った。同校の1年生は、希望職種の職場を訪れインタビューを行う「職場探検」を実施しており、その事前学習として行われた。



「上手なコミュニケーションには、聞きたいことを明確にすることや、事前の下調べが必要」と強調する牧田氏



講師にお礼の言葉を述べる生徒代表（堀川中）



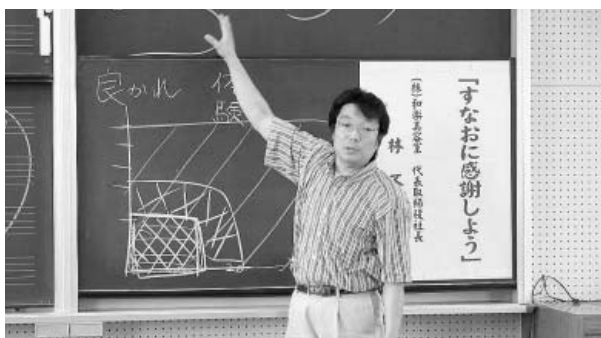
講師の問いに元気に手を挙げる生徒たち（舟橋中）

県内各学校からの要望により、6月から7月までの間に5回にわたって講師7名を派遣した結果、本年度の派遣回数・人数は早くも延べ8回・10人となり、過去最高を記録した昨年を上回るペースとなっている。

舟橋村立舟橋中学校

7回目の課外授業は7月15日、舟橋村立舟橋中学校で行われた。道徳教育に力を注ぐ同校での課外授業は、制度開始以来5年度連続での実施となった。当日は「人生の先輩に聴く」というテーマのもと、当会から3人の講師を派遣した。

1年生(43名)は、林不二男氏(㈱和楽美容室代表取締役社長)が担当し、「すなおに感謝しよう」と題して授業を行った。夢や目標を持ち、職業を通じて何ができるかを考える大切さを強調した。



「先生や親は多くの体験からアドバイスをする。素直に聞き、情報を得たことに感謝することが重要」訴える林氏

2年生(34名)は、翠田章男氏(㈱トンボ飲料代表取締役社長)が担当し、「生きる目的」と題して、授業を行った。「人生観」＝「職業観」といえる。すなわち、「人生とは、自らの人格形成を目指す「旅の途中」であり、職業とはその旅で使用する大切な乗り物である」と伝えた。



「今後、『成長する喜び』『役に立つ喜び』『感謝の喜び』という『3つの喜び』を持ってもらいたい」と語る翠田氏

3年生(38名)は、中園国広氏(三菱商事㈱北陸支店長)が受け持った。「人生明るく、楽しく、前向きに」と題して授業を行い、つらい壁を乗り越えてきた経験から、「どうせ何かをするなら負けたくないという気持ちが大事。どんなに苦しくても何か学ぶことがある」と教えた。



「人生で出会う3000人の人達との付き合いを大切にしよう」「どんな時でもプラス思考で生きよう」と説く中園氏

高岡市立高岡西部中学校

8回目は、7月29日に高岡市民会館ホールで行われた。当会代表幹事中尾哲雄氏(㈱インテック代表取締役会長)が高岡市立高岡西部中学校の全校生徒434名を前に「夢をもって生きよう」と題して講演し、「希望が人間を大きくして、夢が人間を輝かせる」と呼び掛けた。当日は同校の「14歳の挑戦」発表会の後に実施され、保護者も熱心に聴き入っていた。



「夢を求めているから、病気をしても読書を続け、友達を大事にし、いろいろ勉強することができた」と話す中尾氏

課外授業を県内各地で開催 小学校で初めて実施 —派遣回数・人数とも年度前半で昨年度を上回り過去最高記録を更新—

富山市立蜷川小学校

平成17年度の10回目となる課外授業は10月7日、富山市立蜷川小学校で行われた。小学校での課外授業は、制度開始以来今回が初めての実施となった。当日は「夢へのかけ橋」をテーマに総合的な学習に取り組んでいる6年生（112名）が、3つのコースに分かれ、当会の3人の講師の授業を受けた。

当会幹事の吉岡隆一郎氏（㈱文苑堂書店代表取締役社長）は、「社長になろう」と題して授業を行った。「社長は責任が重いが、やりたいことができる」

「つらいことも一生懸命やれば楽しくなる」と社長業の大変さと面白さを語った。



「目標を持てば夢が実現する可能性が上がる」と強調する吉岡氏

安川涼子氏（㈱ロザンBICO代表取締役社長）は、「夢に向かって」をテーマに、子どもの頃から外国生活にあこがれ、一生懸命英語を勉強した体験談から、納得するまで頑張ることの大切さを教えた。



「夢を見つけ、それを叶える努力をすることが大事」と語る安川氏

当会幹事の野村幸司氏（日本銀行富山事務所長）は、「お金と生活」と題して、クイズを交えながら、わかりやすくお金や銀行の役割を説明した。1億円と同じ重さ（10kg）の箱を持った児童は、「重くてびっくりした」と歓声を上げていた。また、偽札と見分けるために紙幣に施されている仕掛けや工夫の話にも目を輝かせていた。



「お金は夢や希望を叶えるために賢く使ってください」と呼びかける野村氏

富山県立魚津高等学校

11回目は、10月8日、富山県立魚津高等学校で行われ、当会幹事の藤田寛氏（日本政策投資銀行富山事務所長）が、2学年239名を前に、「これからの社会で働くということ」と題して講演した。

その後、生徒達は16の分科会に分かれて、様々な分野で活躍している卒業生と懇談し、進路を考える参考にしていた。



「少子高齢化や地球温暖化という大きな問題に無関心でなく、好奇心を持って問題解決に本格的に関わってほしい」と述べる藤田氏

県内各学校からの要望により、10月から11月までの間に6回にわたって延べ8名の講師を派遣した結果、本年度の派遣回数・人数は延べ15回・19人となり、昨年度の実績（12回・15人）を年度前半で大きく上回った。

富山県立大門高等学校

12回目は、10月28日に富山県立大門高等学校で行われた。大会代表幹事中尾哲雄氏（㈱インテック代表取締役会長）が、同校の全校生徒476名を前に「私の歩みきた道」と題して講演し、小学校や高校時代の体験やボランティア活動の経験から、

「夢は年齢とともに変わる。感動、感激の積み重ねが人生を豊かにする」と呼びかけた。



「希望が人間を大きくして、夢が人間を輝かせる」と説く中尾氏

富山県立富山中部高等学校

13回目は、10月29日、富山県立富山中部高等学校で行われ、大会常任幹事の新田八朗氏（日本海ガス㈱代表取締役社長）が、1・2学年560名を前に、「これからの日本を担うみなさんへ」と題して講演した。「受験勉強は辛いですが、その後

に待っている楽しいことをイメージすれば乗り越えられる」と何事にも前向きに取り組むことの大切さを説いた。



「学生時代の勉強が人生の基礎になる」と励ます新田氏

立山町立雄山中学校

14回目は11月9日、立山町立雄山中学校で行われ、大会幹事の若林啓介氏（㈱若林商店代表取締役社長）が、「私の学んだこと」と題して、同校2年生259名の前で講演した。米国での高校留学や商社勤務時をはじめとする世界約40カ国での体験から、「国によって文化は異なる。先入観や偏見をもたずに世界を見つめてほしい」と述べた。



「平和で豊かな日本で生まれたことは幸運だが、油断せず努力してほしい」と語る若林氏

魚津市立西布施小学校

15回目は、11月19日、大会代表幹事中尾哲雄氏（㈱インテック代表取締役会長）が、母校の魚津市立西布施小学校で、同校の4年生から6年生40名を前に、「いつでも夢を」と題して授業を行った。幼い頃の思い出話を交え、「希望や夢

を持っている人は目が輝いている。悲しいことがあっても希望を持って、上を向いて歩いてほしい」と語りかけた。



「お世話になった人への恩返しのつもりで、社会貢献活動に力を入れている」と話す中尾氏

課外授業講師派遣制度 通算50回目を迎える

一年間の派遣人数も初めて20人を超え、最多記録を更新

昨年12月8日に、今年度16回目となる課外授業が、荒井学園高岡向陵高等学校で行われた。今年度20人目の派遣講師となった金森米男氏（金森産業㈱取締役社長）は、2年生115人を前に「明るい日本、人生に希望を」と題して授業を行った。日本人と外国人の考え方の違いを説明し、「日本人の完璧主義はものづくりに向いており、将来の日本経済を支える原動力になる」と説いた。



「日本人であることに誇りと自信を持ってこれから頑張してほしい」と呼び掛ける金森氏

17回目（通算50回目）の課外授業は1月20日に富山市立城山中学校で行われ、古田暉彦氏（北陸電力㈱顧問）が、全校生徒377人を前に「城山中学生に期待すること」と題して講演した。自らの戦中戦後の体験エピソードを交えながら、戦後の日本経済の発展について説明し、「今日の繁栄を築き上げた人々に感謝しよう」と訴えた。また、BRICsをはじめ世界の動向に目を向ける必要性を強調した。



「頭は低く、目は高く、心を広く、そして元気に将来の創造に邁進してほしい」と励ます古田氏

今年度の課外授業講師派遣事業が好評のうちに終了

— 派遣回数・人数とも過去最高を記録 —

平成17年度の課外授業講師派遣事業は、2月から3月までの間に3回にわたって講師3名を派遣し終了した。その結果、本年度の派遣回数・人数は延べ20回24人となった。昨年度(12回・15人)を大きく上回り、過去最高記録を更新した。

立山町立雄山中学校

今年度18回目の課外授業は、2月9日に立山町立雄山中学校で行われた。当会幹事の稲葉実氏(株)三四五建築研究所代表取締役)が、「ロマンとガマンの協奏で青春に挑戦しよう」と題し、1年生250名の前で講演した。富山国際職藝学院の生徒の例をあげ、「何事も慣れて身に付け、教えてもらって覚え、自ら学んで高めよう」と話した。



「名工も初めは素人。基本形を正確に身に付けることで、案外早く上手になることができる」と語る稲葉氏

富山市立東部中学校

19回目は、3月1日、常任幹事の高木繁雄氏(株)北陸銀行取締役頭取)が、母校の富山市立東部中学校で全校生徒304名を前に、「志高く一思いは叶うー」と題して授業を行った。自らの中学校時代に理科の研究で表彰された思い出を交えながら、「高い志を持って努力したことは裏切らない。勉強や部活動に励んでほしい」とエールを送った。



「自分を信じて偽らず、やりたいことを成し遂げるために前向きに頑張る人生を送ってほしい」と励ます高木氏

富山市立宮野小学校

20回目は、3月2日、富山市立宮野小学校で行われ、金澤正雄氏(株)名鉄トヤマホテル代表取締役社長)が、6学年47名を前に、「あいさつは人間関係の潤滑油」と題して授業を行った。

ホテルマンの最低条件(言葉、態度、身だしなみ)について話し、「人生はあっという間。1日1日を大切に。毎日の言葉も大切に」と教えた。



「あいさつは、ア(明るく)、イ(いつでも)、サ(さきに)、ツ(続けて一言)に心掛けることが大事」と教える金澤氏

滑川市中学校教育研究会研究大会

課外授業講師派遣制度は、先生方への「出前講義」にも会員を派遣するよう拡充しているが、2月3日には、滑川市中学校教育研究会の研究大会において、当会常任幹事の林和夫氏(朝日建設(株)代表取締役社長)が講演した。「親として、企業人として～家庭教育をみなおす～」と題して、当会教育問題委員会の活動と自らの経験から家庭教育の大切さを訴えた。



4人の子どもの子育てや母親の介護の経験から、「教育とは人生の種まき。学校教育の中では道徳教育が大切」と話す林氏